

事業所（児童発達支援センター）における自己評価結果（公表）

公表：2021年1月18日

事業所名：ロザリオ発達支援センター ふたば保育園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			法令に則った設備基準であるが、もう少し広さがあると良い。
	②	職員の配置数は適切である	○		看護師は配置基準にはないが、医療ケアを必要とする児の利用があるため、隣接する重心施設の看護師の協力を得ている。	看護師の募集をしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		必要なことに気付いた時点で、環境を整えるように心がけている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日保育室内の清掃。金曜日には、セラピーマットを外し清掃。	室内の喚起や手で触れる箇所のアルコール消毒等の感染対策の実施。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		職員会議・ケース会議を行い改善に努めている。	定期的な見直し。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート結果を周知し、課題の共有に努めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やHP等で公開している	○		法人ホームページと玄関ホールにて公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		H31年度に第3評価を実施し、改善に努めている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		ケース会議や情報を職員同士が伝え合い、資質の向上に努めている	必要な外部研修会（リエ-ト）や所内研修会への参加。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者との面談を実施し、ニーズや課題を整理して計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		独自のアセスメントツールを使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			必要に応じて、PT・ST・CP等の専門職との連携を図る。

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に沿った支援に努めている。 定期的なモニタリングを実施。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全体で行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節が感じられる活動を取り入れるようにしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々の障害に合わせて工夫し、 個別活動を取り入れている。	必要に応じてPT・ST 等の専門職からの助言を 得て活動に取り入れる。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その 日行われる支援の内容や役割分担について確 認している	○		子ども達を受け入れる前に、その 日の活動内容等について職員間 で確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、そ の日行われた支援の振り返りを行い、気付いた 点等を共有している	○		子ども達が帰った後にその日の振 り返りを行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支 援の検証・改善につなげている	○		子ども達が帰った後に職員で分担 して記録を取っている。	記録システムの有効活用。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画 の見直しの必要性を判断している	○		半年に一回のモニタリングを実施 している。	
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者 が参画している	○		サービス担当者会議が開催される 場合は、児童発達支援管理者 が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関 係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて各関係機関との連 携に努めている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 地域の保 健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機 関と連携した支援を行っている	○		重症心身障害児者施設が隣接 しているため、連携を取りながらサ ービス提供している。又、保健セン ターや特別支援学校と連携する ケースもある。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 子どもの主 治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		必要に応じて、主治医等に連絡 をとり、情報提供を依頼することが ある。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて、利用児が併用して いる保育所等と情報共有してい る。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小 学部)との間で、支援内容等の情報共有と相 互理解を図っている	○		就学前等に特別支援学校への 引継ぎ等を行っている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事 業所、発達障害者支援センター等の専門機関 と連携し、助言や研修を受けている	○		同法人の児童発達支援事業所 との交流研修等を実施している。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障 害のない子どもと活動する機会がある	○		近くに保育所等はなく、交流する 機会を設けることが難しい。	家族等からのニーズや機会 があれば検討したい。

	⑳	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	なかなか業務時間内に会議に参加することができない。	
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時や連絡帳を介して伝えている。	
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	実施していない。	家族からのニーズ等があればCP等の専門職に相談をして実施を検討したい。
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	利用契約時に説明を行っている。	
	㉔	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	モニタリング時に説明をして同意を得ている。	
	㉕	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	相談を受けた場合には、相談係と連携を図りながら必要な助言等を行っている。丁寧な対応に努めている。	
	㉖	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	保護者会はないが、行事を通して保護者同士の関わり合いがもてる。	今年度は、新型コロナの影響により行事などのイベントが縮小となった。
	㉗	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	職員全員に伝達、情報を共有し、必要に応じて相談スタッフが加わり対応に努めている。	
	㉘	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	園だよりを年4回発行している。感染予防、行事のお手紙等も出している。	
	㉙	個人情報の取扱いに十分注意している	○	十分注意をしている。その都度保護者に確認・同意を得ている。	
	㉚	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	朝の打ち合わせや振り返り、連絡ノートにて情報伝達を行っている。	
	㉛	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	法人行事の福祉まつりには、地域の方の参加、協力を行っている。	今年度は新型コロナの影響でイベントを中止した。
	非常時等の対応	㉜	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	年1回、引き渡し訓練を実施している。
㉝		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	月1回避難訓練を実施。	
㉞		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	アセスメントを行う際、確認を行っている。	

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師から保護者より情報提供のもと行っている。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		情報を共有し、怪我・事故につながらないように改善している	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回虐待研修に参加。その後、伝達講習にて全職員に伝えられている。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		ケアプラン説明時に説明し了解を得ている。	

※この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。